

2019年度  
合同年次大会  
報告書

日時 2019年6月22日(土) 13時30分  
場所 エスポワールいわて  
盛岡市中央通1-1-38  
TEL 019-623-6251

公益社団法人日本技術士会東北本部  
岩手県支部

いわて技術フォーラム

## 次 第

1. 開 会
2. 支 部 長 挨 拶
3. 会 議 成 立 報 告
4. 議 長 選 出
5. 議 事 及 び 報 告
6. 閉 会

## 2019年度 合同年次大会 報告及び議案事項

### 報告及び議案事項 1

2018年度事業報告及び収支決算並びに監査報告について

### 報告及び議案事項 2

岩手県支部長及びいわて技術フォーラム代表幹事の件

### 報告及び議案事項 3

2019年度事業計画及び収支予算について

以上の議案を提出します

2019年6月22日

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部

支部長 小野寺 徳雄

いわて技術フォーラム

代表幹事 海野 伸

## 2018 年度岩手県支部事業報告書

[2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日]

### ■ 2018 年度の活動概要

2018 年度は、県支部各研究会での研究・研修活動のほか、「いわて技術フォーラム」との協働による全ての県内技術士を対象とした業務・研究発表も行い、個々の資質向上とともに県支部の総合力の向上を図ることができました。研究会活動のなかで、建設 ICT 生産システム研究会では、2014 年 8 月から取り組んだ主に災害時における ICT 活用を目的とした 3D 計測・設計などの研究が社会に還元できるレベルに達したことから、2018 年 10 月に時代の要請を踏まえた新たな取り組みとして「河川管理」と「インフラメンテナンス」を主テーマとした研究活動を開始したところです。

新春、年次大会時、秋季の 3 回の講演会は恒例となった「岩手を知る」シリーズを継続して開催し、会員以外の県民の参加数も増加傾向にあるものと感じています。

また、これも恒例となった「いわてサイエンスシンポジウム 2018」に、いわて技術フォーラムとの協働で体験型の技術出展を行い、社会における科学技術への理解を広めることに貢献できたほか、2019 年 5 月開催予定の（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」の実行委員会へも会場・意見交換会部員として参画しました。

さらに、大槌町からの要請により、「鎮魂の森整備検討委員会」の委員として鎮魂の森基本計画の策定に関わり、東日本大震災からの復興に寄与するとともに、技術士の知名度の向上にもつながったものと思います。

このように、各種の活動に技術士会として幅広く参画したことは、当支部の活動理念の具現化そのものであり、社会・地域から頼りにされる技術士会岩手県支部に一步ずつ近づいてきている証といえるでしょう。

# 2018年度いわて技術フォーラム事業報告書

[2018年4月1日～2019年3月31日]

## ■ 2018年度の活動概要

平成25年7月の「いわて技術フォーラム」発足から6年目となりました平成30年度は、各研究会の活動、講演会の開催、広報・普及活動など、技術士会岩手県支部との連携のもと活発な活動が行われました。

平成28年度から取り組んできた「いわて技術士交流会」も定例化してきており、今年度も4回開催し技術の研鑽と会員相互のつながりの強化が図られたと思っています。

また、岩手県主催の「いわてサイエンスシンポジウム2018」へ技術士会岩手県支部とともに参加し、技術士活動についての県民への普及啓発にもつなげることができました。

このように、実りある活動を展開することができたのは、ひとえに会員各位のご理解とご協力の賜物であり、深く感謝を申し上げます。





(5) 講演会開催（企画委員会）→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述

- 2018.6.16 於：エスポワールいわて 参加人数：84人  
～シリーズ岩手を知る（第14回）～  
『「岩手を測る」伊能忠敬の測量風景』
- 2018.10.20 於：エスポワールいわて 参加人数：56人  
～シリーズ岩手を知る（第15回）～  
「エネルギーの地産地消で、岩手県はどう発展するか」
- 2019.1.26 於：エスポワールいわて 参加人数：44人  
～シリーズ岩手を知る（第16回）～  
『ほんものの「小岩井農場」へ』



(6) いわてサイエンスシンポジウム 2018 への展示・出展の参加（企画委員会）→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述

- 2018.7.16 於：いわて県民情報交流センターアイナ ブース来訪者：約450人



(7) 技術部門別の研究活動全般の統括や技術士倫理に関する活動（技術委員会）

■ 現場セミナーの開催など

(8) いわて技術士交流会（いわて技術フォーラム）→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述  
業務・研究発表（2名）

■ 第1回 2018.05.18 於：エスポワールいわて 参加人数：20人

■ 第2回 2018.07.26 於：エスポワールいわて 参加人数：22人

■ 第3回 2018.09.28 於：エスポワールいわて 参加人数：17人

■ 第4回 2018.11.22 於：エスポワールいわて 参加人数：18人

## 1-2 研究会活動

各研究会等において次の事業が行われた。

研究会名	事業名	実施月日	実施場所	事業内容, テーマ等	参加人数
道 路	現場見学会	2018.7.6	宮古市、盛岡市	新区界トンネル工事現場見学	15名
河 川	研修会	2018.10.19	岩泉町	岩泉町小本川、安家川河川改修現場研修会	13名
森林・水産	現地見学会	2018.10.19	丸太生産現場と加工工場の見学 1. 大迫町：丸太生産現場 2. 住田町、陸前高田市 プレカット工場	◎高性能林業マシンによる伐倒、玉切、集積の一連の作業を見学 ◎最新のラミ工場、プレカット工場の見学	12名
	技術士会主催行事への積極的参加	2019.01.26	2019 日本技術士会岩手県支部 新春講演会	「ほんものの小岩井農場へ」小岩井農場資料館 館長野沢裕美氏 積極的な参加	
	いわて技術士交流会	複数	エスポワールいわて	様々な分野の業務・研究の発表の聴講と発表者としての参加	森氏発表(11月)
	H30年度総会並びに研修会	2019.3.16	エスポワールいわて	1. 総会 活動報告・会計報告・役員改選 2. 研修会	
建設 ICT	成果普及活動	2018.6.29	盛岡広域振興局(盛岡)	技術講演会 「河川災害への3次元計測・設計に関する適応事例と社会活動」(安野代表) 「BIM/CIM/I-Construction 3D設計(橋梁・河川)の取り組み事例」(村上前支部長) ※小野寺支部長同行	盛岡振興局 14名 管内市町村 11名 建設業協会 13名 岩側協 25名
		2018.7.16	県民情報交流センター	いわてサイエンスシンポジウム 2018(いわてまるごと科学館)に浸水プロジェクト「アクションマッピング」、CGによるVR体験、赤青立体動画等を出展	一般約 400名
		2018.7.25	県南広域振興局(遠野) ※建設技術振興課主催	技術講演会(行政職員) 「i-Constructionの社会的背景、県の取組について」(県土整備部建設技術振興課 吉田主任) 「河川災害への3次元計測・設計に関する適応事例と社会活動」(安野代表) 「i-Constructionを見据えた取り組み事例」(村上前支部長) 現場見学会(行政職員、建設業協会、岩測協)	宮古土木カー 2名 北土木カー 1名 遠野土木カー 9名 遠野市役所 6名 建設業協会 12名 岩測協 16名

研究会名	事業名	実施月日	実施場所	事業内容, テーマ等	参加人数
建設 ICT	成果普及活動			<ul style="list-style-type: none"> <li>・3D 起工測量</li> <li>・ICT 機械施工</li> <li>・固定翼 UAV のデモフライト</li> </ul> ※小野寺支部長同行	
		2018.10.17	岩手県立大学 (滝沢)	高度技術者養成講習会で研究会成果紹介 ドローンの活用事例『河川災害 (3D 計測)』	一般受講者 14 名
		2018.11.15	岩手県立大学 (滝沢)	高度技術者養成講習会で研究会成果紹介 ドローンの活用事例『河川災害への 3 次元計測・設計に関する適応事例と社会活動』(安野代表)	一般受講者 15 名
		2018.12.05	気仙川 (陸前高田市)	沿岸広域振興局大船渡土木センター ICT 活用工事の現場見学会における固定翼 UAV のデモフライト ※強風のため動画による説明に変更	発注機関、 建設会社、 測量設計会社 約 60 名
		2018.12.5	エスポワール いわて (盛岡)	土木合同セミナー 「UAV 活用による合理的な河川調査・管理法と河川災害時における 3D データの利活用について」	発注機関、 建設会社、 測量設計会社 約 200 名
	第1回研究会	2018.10.20	エスポワール いわて (盛岡)	研究会の今後の進め方についての検討	会員 20 名 オブザーバー 1 名
	第2回研究会	2018.12.15	野田公民館 (盛岡)	研究テーマに関するアンケート結果と研究テーマについて	会員 19 名 オブザーバー 1 名 新聞社 1 名

## 2. 広報及び普及啓発事業

広く社会に技術士制度の普及啓発を図るとともに、技術士活用の促進、CPD 実施の促進及び支援のための情報提供など、技術士活動の活性化を図るための、以下の事業を行った。

### (1) 広報

- ① ホームページ, Eメールを活用した会員への情報提供, 一般社会への PR
- ② 会員名簿の作成, 配布
- ③ 東北支部「ガイアパラダイム」、公益社団法人日本技術士会「技術士」への寄稿

### (2) 普及啓発

- ① 会員及び協賛企業及び団体の拡大に向けた活動

### 3. 技術士の資質の維持・向上のためのCPD活動

技術士の資質の維持・向上を目的として、技術講演会ならびに研究会活動など、CPD活動を「1. 委員会・研究会活動」に示すとおり開催した。

### 4. 社会貢献活動

#### (1) 講演会の開催

下記の講演会において、市民へ参加を呼びかけ岩手県の震災復興と地域の共生、活性化に向けた取り組みについて情報発信を行った。

- ① 2018.06.16：伊能忠敬の測量風景
- ② 2018.10.20：エネルギーの地産地消で、岩手県はどう発展するか
- ③ 2019.01.26：ほんものの「小岩井農場」へ

#### (2) いわてサイエンスシンポジウム 2018 への展示・出展

震災復興後の本県の持続的な発展に向け、次代の科学技術を担う人材の育成が実現できるよう、多くの子供たちに最先端の科学に触れる機会を提供した。

#### (3) 住田町・昭和橋シンポジウムでの講演

岩手県大船渡土木センターからの要請により、「昭和橋シンポジウム」において、異常出水時における被害拡大リスクなどの内容の講演を行った。

#### (4) 震災復興への協力

大槌町からの要請により「鎮魂の森整備検討委員会」の委員として鎮魂の森基本計画の策定に関わった。

### 5. 東北本部活動への参加

東北本部との連携によって、本会の円滑な運営を図るために、以下の活動に参加した。

- (1) 役員会への参加
- (2) 東北本部政策事業委員会への参加
- (3) 東北本部機関誌「ガイアパラダイム」への寄稿
- (4) 公益社団法人日本技術士会「技術士」への寄稿

## II. 会議の記録

### 1. 合同年次大会

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部・いわて技術フォーラム  
2018 年度合同年次大会

実施日 : 2018 年 6 月 16 日 (土) 13:30~

場 所 : エスポワールいわて 3F 特別ホール

概 要 : 報告及び議案事項 1 2017 年度事業報告及び収支決算並びに監査報告について  
報告及び議案事項 2 2018 年度事業計画及び収支予算について

### 2. 役員会

開催日	役員会	主要議題
2018.05.18	第 1 回役員会	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 技術士制度検討委員会での更新制度に関する検討状況</li><li>・ 平成 31 年度からの試験方法変更概要</li><li>・ インターネットによる役員選挙制度の導入</li><li>・ 技術士全国大会 (福島) の準備状況</li><li>・ CPD 事業への統括本部補助について</li><li>・ 年次大会について</li></ul>
2018.07.26	第 2 回役員会	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 東北本部役員会報告等</li><li>・ いわてサイエンスシボジウムに参加状況について</li><li>・ 秋季講演会の計画について</li><li>・ 支部予算について</li><li>・ 全国大会参加の補助について</li><li>・ 企画委員の承認</li></ul>
2018.09.19	第 3 回役員会	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 東北本部政策事業委員会報告等</li><li>・ 秋季講演会の計画について</li><li>・ 建設 ICT 生産システム研究会の新規取り組み</li><li>・ 支部予算について</li><li>・ 会長表彰への推薦について</li><li>・ 砂防学会の定時総会の情報提供</li></ul>
2018.11.19	第 4 回役員会	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 東北本部役員会報告等</li><li>・ 新春講演会の計画について</li><li>・ 建設 ICT 生産システム研究会の活動状況</li><li>・ H31 年度の体制について</li></ul>
2019.01.20	第 5 回役員会	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 東北本部政策事業委員会報告等</li><li>・ 平成 31 年度の支部予算について</li><li>・ 総務委員の委嘱について</li><li>・ 「技術士の目」再開について</li><li>・ H30 年度主要行事日程について</li><li>・ 支部幹事選挙について</li></ul>
2019.03.18	第 6 回役員会	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 東北本部役員会報告等</li><li>・ 平成 31 年度の支部予算について</li><li>・ 総務委員の委嘱について</li><li>・ 「技術士の目」再開について</li><li>・ 平成 31 年度主要行事日程について</li><li>・ 支部幹事選挙について</li></ul>

なお、役員会の議事録については、随時、当会ホームページに掲載しております。

### III. 会員の動向

#### 1. 岩手県支部

平成 31 年 4 月時点の会員の動向及び構成は以下の通りである。

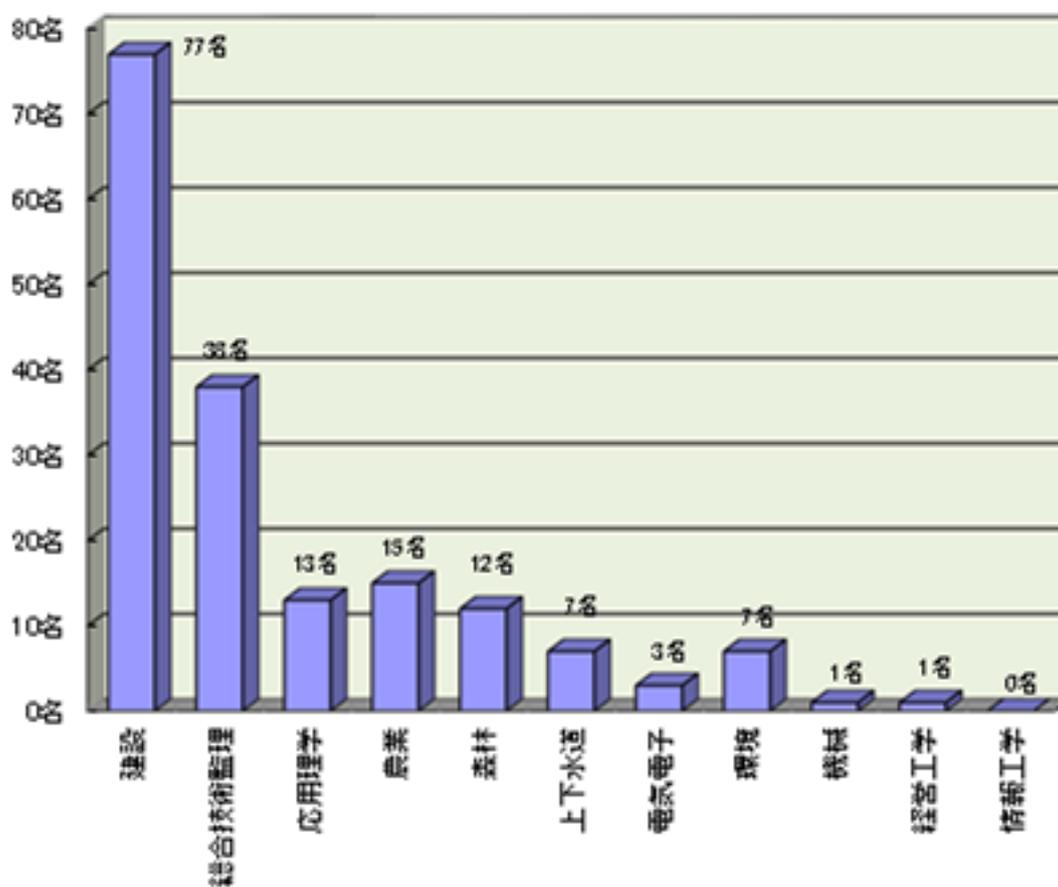
【会 員】 117 名（実数）：前年度会員数 106 名

【準 会 員】 9 名（実数）：前年度会員数 8 名

【賛助会員】 8 社：前年度会員数 7 社

下のグラフに示された各部門の人数は複数部門をカウントした数値になっているので実数と整合しない

岩手県支部会員の部門別状況



## 2. いわて技術フォーラム

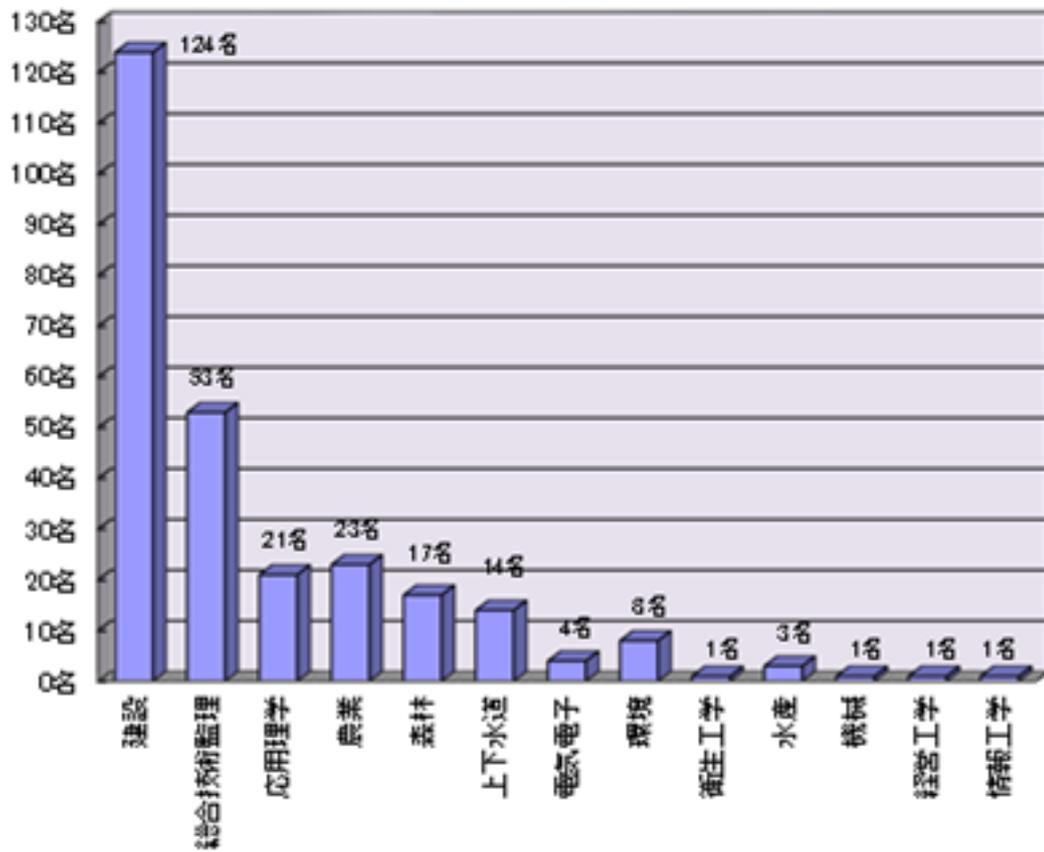
平成 31 年 4 月時点の会員の動向及び構成は以下の通りである。

【会 員】 193 名（実数）：前年度会員数 197 名

【準 会 員】 9 名（実数）：前年度会員数 8 名

下のグラフに示された各部門の人数は複数部門をカウントした数値になっているので実数と整合しない

本部会員+フォーラム会員の部門別状況



# 決算報告書

自 平成30年 4月 1日  
至 平成31年 3月31日

統合会計（地域組織）岩手県支部  
東京都港区芝公園3-5-8

## 貸借対照表

平成31年 3月31日現在

統合会計（地域組織）  
一般会計

岩手県支部  
(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	430,657	343,046	87,611
普通預金	430,657	343,046	87,611
未収金	196,112	250,000	△ 53,888
流動資産合計	626,769	593,046	33,723
資産合計	626,769	593,046	33,723
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
指定正味財産合計	0	0	0
<b>2. 一般正味財産</b>			
正味財産合計	626,769	593,046	33,723
負債及び正味財産合計	626,769	593,046	33,723

## 収支計算書

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

統合会計（地域組織）  
一般会計

岩手県支部  
(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
<b>I 事業活動収支の部</b>			
<b>1. 事業活動収入</b>			
事業収入	[ 50,000]	[ 0]	[ 50,000]
自主事業収入	( 50,000)	( 0)	( 50,000)
参加費収入	50,000	0	50,000
地域組織収入	[ 580,000]	[ 526,112]	[ 53,888]
地域組織活動費収入	330,000	330,000	0
地域組織活動補助費収入	( 250,000)	( 196,112)	( 53,888)
講演会・見学会開催補助費収入	250,000	196,112	53,888
雑収入	[ 0]	[ 130,004]	[△ 130,004]
受取利息	0	4	△ 4
雑収入	0	50,000	△ 50,000
協賛金収入	0	80,000	△ 80,000
事業活動収入計	630,000	656,116	△ 26,116
<b>2. 事業活動支出</b>			
事業費支出	[ 1,365,000]	[ 622,393]	[ 742,607]
事業広報費	( 210,000)	( 81,060)	( 128,940)
会誌印刷費	150,000	0	150,000
会誌郵送費	20,000	0	20,000
インターネット運用費	40,000	34,860	5,140
その他の広報活動費	0	46,200	△ 46,200
普及啓発費	( 0)	( 10,000)	(△ 10,000)
関係団体費	0	10,000	△ 10,000
研究会費	( 800,000)	( 311,299)	( 488,701)
講演会・見学会開催費	800,000	311,299	488,701
業務推進費	( 355,000)	( 220,034)	( 134,966)
賃金	0	10,000	△ 10,000
会議費	60,000	61,551	△ 1,551
旅費交通費	50,000	30,000	20,000
通信運搬費	0	16,632	△ 16,632
消耗品費	0	8,823	△ 8,823
各種会費	0	14,388	△ 14,388
事務所賃借料	120,000	60,000	60,000
雑費その他	125,000	18,640	106,360
事業活動支出計	1,365,000	622,393	742,607
事業活動収支差額	△ 735,000	33,723	△ 768,723
<b>II 投資活動収支の部</b>			
<b>1. 投資活動収入</b>			
投資活動収入計	0	0	0
<b>2. 投資活動支出</b>			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
<b>III 財務活動収支の部</b>			
<b>1. 財務活動収入</b>			
財務活動収入計	0	0	0
<b>2. 財務活動支出</b>			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	△ 735,000	33,723	△ 768,723
前期繰越収支差額	735,000	593,046	141,954
次期繰越収支差額	0	626,769	△ 626,769

## 財産目録

平成31年 3月31日現在

統合会計（地域組織）  
一般会計

岩手県支部  
（単位：円）

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	預金	普通預金	430,657
		岩手/岩手銀行	430,657
	未収金		196,112
流動資産合計			626,769
資産合計			626,769
正味財産			626,769

## 監査報告書

令和元年 5月 13日

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部

支部長 小野寺 徳 雄 様

幹事 高橋 敏 晴 

幹事 黒墨 秀 行 

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部 規則第 41 条に基づき、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの平成 30 年度の監査を行ったので、その結果について報告する。

### 1. 監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する書類を閲覧し、計算書類についての照合その他相当な方法を用いて調査した。

### 2. 監査結果の意見

収支決算書は、収支の状況を適正に表示しているものと認める。

以上

いわて技術フォーラム 2018年度収支決算書

(2018年 4月1日から2019年 3月31日まで)

【収入の部】

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会 費	498,000	447,500	50,500	会員74名、中途入会1名
会 費 未 収 入 金	120,000	78,000	42,000	H28 1名、H29 12名
総 会 参 加 費	70,000	28,000	42,000	
各 種 事 業 参 加 費	60,000	32,000	28,000	
雑 収 入	1,704	3	1,701	受取利息
当 期 収 入 計 (A)	749,704	585,503	164,201	
前 期 繰 越 収 支 差 額	600,296	600,296	0	
収 入 合 計 (B)	1,350,000	1,185,799	164,201	

【支出の部】

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
総 会 費	200,000	54,707	145,293	会場費、資料コピー代他
役 員 会 費	50,000	50,301	△ 301	会場費、資料コピー代他
委員会・研究会活動費	500,000	205,041	294,959	活動費、パソコン・プロジェクトリス代
広 報 ・ 渉 外 費	200,000	219,888	△ 19,888	会員名簿、新年特集号広告
事 務 費	200,000	141,447	58,553	送料、送金手数料、 会費納入送金手数料、事務手数料
小 計	1,150,000	671,384	478,616	
予 備 費	200,000	0	200,000	
当 期 支 出 計 (C)	1,350,000	671,384	678,616	
当 期 収 支 差 額 (A) - (C)	△ 600,296	△ 85,881	△ 514,415	
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B) - (C)	0	514,415	△ 514,415	

# 監査報告書

令和元年5月13日

いわて技術フォーラム

会長 海野 伸 様

監事 高橋敏晴 

監事 黒墨秀行 

いわて技術フォーラム規則第20条2及び3項に基づき、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの平成30年度の監査を行ったので、その結果について報告する。

## 1. 監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する書類を閲覧し、計算書類についての照合その他相当な方法を用いて調査した。

## 2. 監査結果の意見

収支決算書は、収支の状況を適正に表示しているものと認める。

以上

## 岩 手 県 支 部 委 員 会 ・ 研 究 会 活 動 報 告

活 動 名	岩手まるごと科学館（いわてサイエンスシンポジウム）事業参加
主 催	岩手県政策地域部（いわてサイエンスシンポジウム実行委員会）
日 時	平成 30年 7月 16日（月）海の日 10:00～16:00
場 所	アイーナ全館（当ブース5階）
参加人数等	当方ブース参加者約450人（配布科学ノートは完済）全体約3500人
活 動 内 容	
<p>1、岩手県支部関係協力者          小野寺支部長、村上氏、海野氏、安野氏、（実行委員 出口、W/G委員 松原）          出展協力会社メンバー11名</p> <p>2、出展協賛協力会社：（株）昭和土木設計、（株）土木技研、（株）タックエンジニアリング</p> <p>3、岩手県支部展示タイトル：科学技術のすばらしさを、みんなで学び楽しく体験          ・VRで世界を旅しよう！ ・模型で分かる土木のしくみを体験しよう          ・3Dで岩手を学ぼう！</p> <p>4、展示内容  <b>【VR（拡張現実）体験】</b> グーグルアース、VRで岩手名所巡り：歴史的建造物（南昌荘もしくは旧南部氏別邸庭園）  <b>【ドローンフライトシミュレーター】</b>  <b>【土木のしくみを模型で学び、楽しく体験してもらう】</b>  <b>【三陸ジオパークを3Dで身近に】</b> 田老三王岩の3D映像  <b>【プロジェクションマッピングで学ぶ災害タイムライン】</b> 災害の見える化  <b>【あなたの町はどんな場所？（GIS体験）】</b> 日本全国赤色立体地図とハザードマップ</p> <p>5、県支部ブースの出展状況          一昨年からの三回目の参加となった。当方の関係者は、新しく揃えた県支部のTシャツを着用し、小中学生を相手に一生懸命展示内容の分かり易い説明内容の対応をしていたのが印象的だった。また、技術士を理解してもらう目的で、子供の参加者には科学ノートを配布し、技術士を説明したところ、大変好評を博し喜んでもらった。今後も同様の催事があれば、岩手県支部の存在を県民に強く理解してもらい、一般の方々と接する恰好の機会創出のため、継続して参加していくことが必要と思われた。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>小学生のVR体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>土木のしくみを学ぼう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>協力関係者スタッフ （記：出口）</p> </div> </div>	

## 事 業 報 告

活 動 名	日本技術士会東北本部岩手県支部平成 30 年度講演会 『「岩手を測る」伊能忠敬の測量風景』 (シリーズ岩手を知る (第 14 回)) (CPD 番号 30-1)
主 催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日 時	平成 30 年 6 月 16 日 (土) 15:00~16:00
場 所	エスポワールいわて (盛岡市中央通 1-1-38)
参加人数等	参加者 84 名 (技術士: 53 名 一般: 31 名)
活 動 内 容	
<p>【講師】大矢 喜久男 氏 ( 菱和建设株式会社 )</p> <p>大矢氏は、20 年程前に岩手県土木技師時代に赴任した釜石市で、伊能忠敬の星座石のある史跡を訪れた際、当時として高精度な測量精度で、なおかつ江戸から歩いてきた事に、唖然とするほど感激し、それから 20 年余り伊能忠敬について探求している。その歴史的かつ技術的な功績とともに、第二次測量での岩手県沿岸部、そしてその帰路である中央部の測量旅についてご講演頂いた。</p> <p>伊能忠敬は、当時としては高齢の 50 歳から測量の勉強を始め、必死の勉強と毎晩の天文観測により、高度な測量技術を確立していた。幕府の委託事業として第二次測量では岩手沿岸部を巻き尺(間縄)や現在の平板、そして天体観測による緯度計測の結果などによる交会法で測量したとの事である。その測量の精度は現在の 85%の精度にも達したとの事である。岩手県沿岸部の測量の足跡は沿岸の村々を渡り、その土地での宿や食事のおもてなしを受けた事が日誌や宮古市史に記載されており、また測量旅の帰路である沼宮内から盛岡、一関までの様子も紹介頂いた。</p> <p>今回の講演では御宿となった宮古市盛合邸の事や、沿岸での南部藩の無礼、そしてその無礼を誤るかの如く盛岡で手厚いおもてなしの内容に、出席者から笑い声があふれた。また、日誌の中に出てくる盛岡にある「石町」が一体どこか不明であったが、それが現在の盛岡市の穀町ではないかという私見にたどり着いたとの事で出席者から感嘆の声が上がった。</p> <p>大矢氏による岩手の測量功績の紹介により、出席者の多くから測量技術とその功績に感嘆の声が多く聞こえた講演会であった。50 歳を過ぎてからの測量技術の研鑽と測量成果、そして大矢氏の伊能忠敬への探求に技術士として大変感服する内容であった。</p> <p style="text-align: right;">(記: 武田)</p>	
  	
<p>小野寺岩手県支部長挨拶                      講師の大矢氏                      測量の様子 (資料より)</p>	
 	
<p>満員となった会場                                      質疑に答える大矢氏</p>	

## 事 業 報 告

活 動 名	日本技術士会東北本部岩手県支部平成 30 年度秋季講演会 『エネルギーの地産地消で、岩手県はどう発展するか』 (シリーズ岩手を知る (第 15 回))
主 催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日 時	平成 30 年 10 月 20 日 (土) 15 : 00～16 : 45
場 所	エスポワールいわて (盛岡市中央通 1-1-38)
参加人数等	参加者 56 名 (技術士 : 50 名 一般 : 6 名)
活 動 内 容	
<p>【講師】北村 和也氏 日本再生可能エネルギー総合研究所 代表</p> <p>初めに講師の北村氏よりエネルギーをめぐる情勢について説明があった。再生可能エネルギーは世界では主流となっており、その理由としては「発電に元手がいらなく、安いエネルギーであること」というお話があった。日本では、世界ほど価格は下がっていないが、今後は再生可能エネルギーの価格が下がっていくということが説明された。特に、RE100 という再生可能エネルギー100%を目指す世界の企業団体に、世界の大手企業がこぞって参加している。日本ではまだ 11 社の加盟であるが、加盟することがトレンドとなっており、再生可能エネルギーと企業活動は切り離せない関係となっている。また、近年頻発する災害の中で、大規模停電などの対策のため地域で再生可能エネルギーを持つことも、BCP の観点から大切なことである。</p> <p>これらを踏まえ、岩手県の再生可能エネルギーに関するお話があった。エネルギーの地産地消とは「自給自足」ではなく、再生可能エネルギーの付加価値を地元に残すことが重要であり、そのためには地域の会社がこれらを営むことが大切であるとのことであった。</p> <p>具体例として、久慈地域エネルギー株式会社に関して紹介いただいた。久慈市内の民間業者および久慈市がエネルギー事業を営んでいる。また、久慈市には、久慈バイオマスエネルギーという日本最大級のバイオマスエネルギー会社があり、この会社と協力しながら事業を進めていくとのことであった。</p> <p>これから再生可能エネルギーの重要性はますます高まっていくと感じた。日本の中でも岩手県は再生可能エネルギー界をリードするポテンシャルがあると考えられ、久慈地域エネルギー株式会社を含む、県内の再生可能エネルギー関連会社がますます発展していくことを期待したい。</p> <p style="text-align: right;">(記 : 森 千夏)</p>	
	
講師 北村 和也氏	会場の様子

## 事 業 報 告

活 動 名	日本技術士会東北本部岩手県支部 2019 年新春講演会 『ほんものの「小岩井農場」へ』 (シリーズ岩手を知る (第 16 回))
主 催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日 時	2019 年 1 月 26 日 (土) 15 : 00~16 : 30
場 所	エスポワールいわて (盛岡市中央通 1-1-38)
参加人数等	参加者 44 名 (技術士 : 31 名 一般 : 13 名)
活 動 内 容	
<p>【講師】野沢 裕美氏 小岩井農場資料館 館長</p> <p>始めに、小岩井農場の地勢についての紹介があった。小岩井農場の面積は約 3,000ha であり、東京ドームに換算すると約 64 個分である。そのうち観光農場として開放されているまきば園は約 50ha であり、如何に小岩井農場の敷地が広大かわかる。</p> <p>続いて、小岩井農場の歴史についてお話しあった。小岩井農場は明治 24 年に創業され、創業者である小野義真、岩崎彌之助、井上勝の 3 名の頭文字から名づけられている。当初は井上勝が経営に携わっていたが、8 年後に経営を引き継いだ岩崎彌之助が「畜主耕従」に方針転換し、優良畜種の輸入、牛乳・乳製品の製造販売、植林造成の開始など、現在に至る小岩井農場の基礎を築いた。</p> <p>戦後、ほとんどの私設農場が解放させられたが、小岩井農場は存続できた。しかし、伐採による林地荒廃や徴兵による労働力不足により経営は困難を極めた。そこで、小岩井乳業創設による全国展開などによる経営の多角化を推進した。</p> <p>小岩井農場の経営理念として「環境保全・持続型・循環型」「安全・安心・素性明らかな+質の高さ」をご紹介いただいた。この理念に基づき酪農、加工・販売、バイオマス発電などを展開している。</p> <p>また、小岩井農場には 21 棟の重要文化財と 1 件の国指定名称がある。これらの文化財は現在も使用されており、経営理念に基づく経営が行われているからこそ、小岩井農場の美しい景観を保つことができるという。</p> <p>講演終了後の質疑応答では、一般参加者からも活発なご質問を頂いた。小岩井農場がいかに岩手県民になじみ深く、また、思い出深いものか感じさせられる講演となった。</p> <p style="text-align: right;">(記 : 森 千夏)</p>	
	
<p>講師 野沢 裕美氏 <span style="float: right;">会場の様子</span></p>	

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

事業名	現場見学会（宮古盛岡横断道路 新区界トンネル） (CPD 番号 30-2)
委員会・研究会名	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部道路研究会
日時	平成 30 年 7 月 6 日（金） 13：30～16：00
場所	岩手県宮古市区界 宮古盛岡横断道路 新区界トンネル工事現場
参加人数等	15人

活動内容

～トンネル覆工工事現場見学～

1. 見学会の概要

- 見学道路である宮古盛岡横断道路は、東日本大震災からの復興に向けての「復興支援道路」と位置付けられています。その路線の中でも見学箇所である新区界トンネルは、2020年度の開通に向けて事業が進められています。新区界トンネルは、全長約 5.0km（4,998m）の長大トンネルで、完成すれば岩手県最長となり、避難坑も設置されることから、その現場を見学することにより、今後の技術向上に役立つことを目的として実施しました。

（本現場見学会は、宮古盛岡横断道路 新区界トンネル工事 鹿島・東急特定建設工事共同企業体の方々 に多大なる御協力を頂きました。）

2. 見学内容

(1) 現場事務所での概要と地質説明

現場事務所会議室にて所長の西川様（当会会員）より概要説明と、地質の状況や現場の苦労話などをして頂きました。2018年1月11日貫通してまでの昼夜交代作業や、作業環境の改善など、現場を見ただけではわからない興味深い話も聞くことが出来ました。

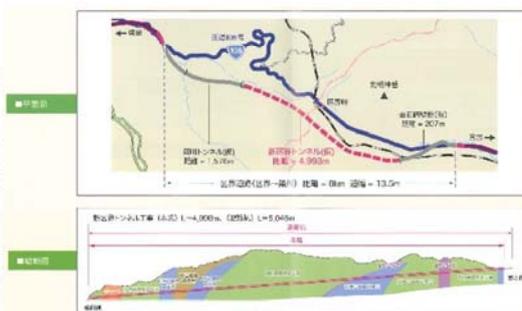
(2) トンネル見学

トンネル本体は覆工工事中で、防水シートの設置状況など普段見ることが出来ない現場を見学することが出来ました。また、生まれて初めて避難坑なるものに入り、開通後に利用する場面には出会いたくないとも思いました。

(3) トンネルズリ埋め立て場見学

造成現場と思われるようなトンネルズリ埋め立て場を見学しました。（天気が良ければ素晴らしい景色が望める場所でしたが、あいにくのガスで残念。）

[文責：牧野]



宮古盛岡横断道路 新区界トンネル工事パンフ  
(国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所) より



(公社) 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 研究会 活動報告

活動名	平成30年度 森林・水産研究会 現地研修会
主催	岩手県支部 森林・水産研究会
日時	平成30年10月19日(金) 8:30 ~17:30
場所	花巻市大迫町丸太生産現場、住田町・陸前高田市プレカット生産工場
参加人数等	12人(本部会員10名 非本部会員2名)

活動内容

① 高性能林業機械による木材 丸太生産現場

佐藤木材様のご協力のもと、普段目にする事のない高性能林業による木材丸太生産現場を見学した。

ハーベスタによる伐倒、玉切、集積の一連の作業を実施してもらう。立木1本の伐倒、玉切、集材まで2~3分しかかからず、あっという間に数十本の伐倒作業が完了した。一同は、高性能林業機械の実力に驚いた様子。また、スイングヤーダ、フォワーダの実機も見学することができた。最新の作業システムによる施業を見学することで、近年加速化している林業の効率化の一端に触れることができた。



ハーベスタによる伐倒作業

② プレカット加工による住宅部材の生産工場

けせんプレカット事業協同組合様のご協力のもと、最新のラミナ工場、プレカット工場を見学した。

合板の加工、住宅のパネル加工の生産現場を住田工場で見学する。高田工場では、CAD→多重加工機による複雑な継手加工を見学する。特に多重加工機の高精度な継手加工と加工スピードに注目が集まった。

今回の研修は、秋晴れのもと最新の林業の現場をじっくりと見学することができた。また見学現場では活発な意見交換を行うなど、内容の濃い有意義な研修会を行うことができた。

以上 (文責 佐藤)



住田工場の見学



高田工場の見学

(公社) 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 研究会活動報告

活動名	平成30年度 森林・水産研究会 総会・研修会 (CPD 番号 30-8)
主催	岩手県支部 森林・水産研究会
日時	平成31年3月16日(土) 総会 15:00~15:40 研修会 15:50~17:20
場所	岩手県盛岡市中央通一丁目 1-38 エスポワールいわて
参加人数等	総会 19人 研修会 23名 (講師2名含む)

活動内容

1. 平成30年度 森林水産研究会総会

1.1 平成30年度活動報告、会計報告

平成30年の活動報告、会計報告について事務局より説明を行い会員からの承認を得ました。

1.2 役員改選

平成30年度は、役員改選の時期であり以下の役員が選出され、会員の承認を得ました。

研究会代表(技術士会)：西村 和明

研究会代表(いわて技術フォーラム)：小原 正明

研究副代表：広瀬 伸二

常任委員：青名 畑実

監事：外館 聖八朗

代表幹事事務局担当：佐藤 達也



総会の様子

2. 平成30年度 森林水産研究会研修会

2.1 「地上レーザースキャナを用いた

治山・林道調査設計事例」

講師：北光コンサル株式会社

技術第1部門責任者 佐々木 洋氏

地上レーザースキャナーやUAV等を用いて地形測量を実施し、グラフィックによる「見える化」を実現した設計事例についての話題提供をいただきました。

特に「レーザー測量の方法や精度」についての、質疑や意見が交わされるなど活発な論議が行われました。



講師の佐々木 洋氏

2.2 「林業担い手の現状と

いわて林業アカデミーについて」

講師：岩手県林業技術センター

所長 赤澤 由明氏

近年林業就労者が減少する中、林業担い手の育成確保が急務であり、岩手県で実施している「いわて林業アカデミー」の取組についてのご講義をいただきました。

アカデミーの研修は、民間企業の講師派遣や就業体験も含めた研修が行われており、新しい人材育成手法について会員も熱心に聴講され活発な議論が行われました。



講師の赤澤 由明氏

— 以上 — (文責 佐藤)

### 3 岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	平成30年度河川研究会報告現場研修 (CPD番号30-3)
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部河川研究会報告
日時	平成30年10月19日(金) 10:00 ~ 15:00
場所	I 二級河川小本川(岩泉町門～小本地区) II 二級河川安家川(岩泉町安家地区)
参加人数等	会員)13人、 事業者)岩泉土木センター 副所長、担当課長 2名

#### 活動内容

1 事業概要 2河川とも岩泉町において平成28年8月30日発災の台風第10号で甚大な浸水被害を受けたところ(1)小本川治水対策目的:台風第10号規模相当に対する再度の浸水被害防止 治水安全度1/30、2つの事業を導入 事業期間:平成28年度～2020年度予定 ①河川激甚災害対策特別緊急事業;河口小本～岩泉間 延長24.1km,支川清水川(ズガリ)2.0km、主に河道掘削、築堤、一部輪中堤、宅地かさ上げ☆事業進捗:主に用地補償、河道掘削 ②災害復旧助成事業;岩泉尼額(アヒタイ)～門地区 延長22.8km、主に河道拡幅、河道掘削、流木捕捉工 など ☆事業進捗:主に用地補償、河道掘削 ※課題;支障家屋の移転先、河道掘削に伴う膨大な残土処理、工事工程管理。

(2)安家川治水対策目的:台風第10号規模相当に対する再度の浸水被害防止 治水安全度1/30、2つの事業を導入。事業期間平成28年度～2019年度①河川災害復旧等関連緊急事業:下流～安家橋間2.2km、主に用地補償、河道掘削、護岸 ②河川等災害関連事業;安家橋～上流 延長0.5km ☆事業進捗:主に用地補償、河道掘削、護岸 ※課題;支障家屋の移転先、環境保全対策、工事工程管理

#### 2 現場研修

(1)小本川)・掘削土砂の処理に関する事。・ICT技術の導入の可能性。・流木捕捉工の計画に関する事。・輪中堤に関する事。・用地補償に関する事。・危機管理型水位計に関する事。治水計画、設計、施工計画に関し様々質疑応答できました。☆2020年度の完成に向け河道掘削に着手する等着実に進捗していることを実感しました。甚大な浸水実績ありました沿川まちなみの再度災害防止に繋がることとなります。

(小本川 門地区=上流端)



(小本川 乙茂地区=中流部 河道掘削施工状況)



(2)安家川)・ゾーニング設定に関する事。・自然環境保全の取組みに関する事。・河畔林の保全に関する事。・河道における置石施工に関する事。・用地補償に関する事。治水計画、設計、施工計画に関し様々質疑応答できました。☆2019年度の完成に向け河道掘削、護岸が施工される等、着実に進捗していることを実感しました。甚大な浸水実績ありました沿川まちなみの再度災害防止に繋がることとなります。

(安家川 下流部=護岸施工状況)



(安家川 上流部=護岸施工、置石状況)



公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

事業名	研究成果普及活動
委員会・研究会名	建設 ICT 生産システム研究会
日時	平成 30 年 6 月 29 日 (金) 14 : 30~16 : 50
場所	盛岡地区合同庁舎 8F 講堂 C
参加人数等	63 名 (盛岡広域振興局 14 名、管内市町 11 名、建設業協会 13 名、岩測協 25 名)
活 動 内 容	
<p><b>【講演の概要】</b></p> <p>講習会名：建設 ICT 技術講習会  主 催：盛岡広域振興局土木部  趣 旨：盛岡広域振興局および管内市町建設系職員等の「i-Construction」における建設 ICT への理解を深める。  内 容：講演 I 「河川災害への 3 次元計測・設計に関する適応事例と社会活動」  安野研究会代表  講演 II 「BIM/CIM I-Construction を見据えた取り組み事例」  村上前支部長  同 行 者：小野寺支部長</p> <p><b>【これまでの経緯】</b></p> <p>平成 26 年 8 月に発足した当研究会は、災害時における ICT の活用を目的とした研究に取組み、次のような成果を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● UAV による 3D 空間計測および解析</li> <li>● 計測精度の検証</li> <li>● 3D 現況地形モデルの作成</li> <li>● 3D 設計モデルの作成</li> <li>● 3D 現況地形モデルと 3D 設計モデルの連係・統合</li> </ul> <p>上記の成果を踏まえ、国土交通省が推進している i-Construction の県内普及を支援することを目的として、県の出先機関 4 カ所で成果普及活動を展開してきたところである。</p> <p><b>【講演に先立って】</b></p> <p>講演に先立って、佐々木土木部長および小野寺支部長からの挨拶があり、その後講演に移った。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真-1 佐々木土木部長の挨拶</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真-2 小野寺支部長の挨拶</p> </div> </div>	

【講演Ⅰ】河川災害への3次元計測・設計に関する適応事例と社会活動

これまでの研究会の取組みにおいて、以下に示す成果が紹介された。

- 河川災害を事例として、災害復旧事業への UAV 活用による 3D 地形計測（測量）に関する精度検証を行い、十分な測量精度を確認し 3D 設計に活用可能なことを実証した（実測に代替し得る）
- 3D 計測データによる 3D 地形モデルの下で、3D 設計が可能であることを確認した
- 水域・植生等マッチングの難しい箇所の補測、設計への活用にデータ過多（間引き）対応の必要性など、課題も明らかとなった
- 研究過程のニーズから、新たな災害時の調査手法（バーチャル現地調査法）を開発し有効性を実証した

調査成果は中小河川における施設台帳的な性格を持ち、河川等の維持・管理にも有効な情報であることが判明した。

また、河道内の土砂移動現象や河道内植生の消長などを ICT の活用によって数値・視覚化することで、合理的な河川管理手法の構築につながる固定翼 UAV による計測技術などの紹介もなされた。



写真-3 安野氏による講演

【講演Ⅱ】BIM/CIM i-Construction を見据えた取組み事例

BIM/CIM i-Construction 施策の社会的背景を踏まえ、主に設計工程における 3 次元現況地形モデルと 3 次元設計モデルの連係・統合の事例など、以下の内容について紹介がなされた。

- 今なぜ i-Construction なのか
- BIM/CIM i-Construction の方向性
- 3 次元空間計測
- BIM/CIM 3D 完成形可視化モデル
- 3D 設計のメリットと課題



写真-4 村上氏による講演

【講演内容に対する質問】

- 固定翼 UAV に関して
- 2025 年の生産性 20%向上について
- 3 次元設計モデル作成コストについて

【後記】

盛岡土木より事前にプレス発表が行われ、講演の様子は日刊岩手建設工業新聞、平成 30 年 7 月 9 日号により報道がなされた。

今回の講習会は、これまで県の出先で行った講習会の中で最も参加者が多く、関心の高さを感じた。

以上

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

事業名	建設ICT生産システム研究会 ；新テーマ第1回（CPD番号 - ）
委員会・研究会名	建設ICT生産システム研究会
日時	平成30年10月20日 13:15～14:15
場所	エスポワールいわて 2F大ホール
参加人数等	会員20名 オブザーバー1名

活動内容

1.研究会のこれまでの成果

平成26年8月に発足した当研究会は、「災害時におけるICTの活用」を目的とした研究に取組み、次のような成果を得ることができました。

- ①UAVによる3D空間計測および解析
- ②計測精度の検証
- ③3D現況地形モデルの作成
- ④3D設計モデルの作成
- ⑤3D現況地形モデルと3D設計モデルの連係・統合

また、上記の成果を踏まえ、国土交通省が推進している*i-Construction*の県内普及を支援することを目的として、本研究会の成果を基に平成29年度から県の各出先機関での技術研修・普及活動を展開してきました。



2.新たな研究テーマによる再スタート

これまでの研究は、前項の成果に加え、派生技術の進展も見られ、社会に還元できるレベルに到達するなど、当初の予想を超えた展開が見られました。そこで、これまでの研究を終了し、新たな研究テーマを設定した上でメンバーを募集し再スタートすることとしました。





**建設ICT生産システム研究会**

---

**新テーマ第1回 キックオフ会議**

2018年 10月20日  
日本技術士会 東北本部 岩手県支部  
**「建設ICT生産システム研究会」代表**  
**安野 雅満**

3.これからの活動について

今回の新たなメンバーは応募した支部会員とフォーラム会員、実際に3D計測や3D設計に携わっている方々の計22名となり、更に学識経験者とオブザーバー（支部長）にも参加いただきながら活動を始めます。

また、研究会の運営方針や研究対象については「河川管理」と「インフラメンテナンス」の2分野を柱にアンケートを行い、具体的なテーマを絞り込む予定です。

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

事業名	建設ICT生産システム研究会 ; 新テーマ第2回 (CPD番号 - )
委員会・研究会名	建設ICT生産システム研究会
日時	平成30年12月15日 13:30~15:00
場所	盛岡市津志田西 野田公民館
参加人数等	会員19名 オブザーバー1名 新聞社1名

活動内容

1.研究テーマについてのアンケート実施

10月22日の第1回会合の後、研究テーマの絞り込みのために研究会メンバーに「河川管理」、「インフラメンテナンス」の2項目についてアンケートを実施しました。

その結果、河川管理に関しては河道内の堆積土砂や河川施設の状態調査等について、インフラメンテナンスでは橋梁点検及び道路ポットホール検出等についての希望・回答が多く寄せられました。

その結果、「河川管理」では河口部の堆砂・閉塞を題材とした検証、およびQ-GISを活用したバーチャル河川台帳についての検証を大枠とし調整することとなりました。また、「インフラメンテナンス」では橋梁点検と路面調査を基本に、調整することとしました。



● 本日の次第 13:30~15:00(予定)

- 開会
  - ・支部長挨拶
  - ・代表挨拶
- 議事
  - ・アンケート結果について
  - ・研究テーマについて
    - ・河川管理
    - ・インフラメンテナンス
  - ・第3回研究会について(今後の進め方)
- 閉会

3.今後の予定について

本日の結果を基に具体的な内容や現場、グループ分け等について調整し研究の実施計画を作成し、来年4月からは「ICT 関連知識の共有化」、「各テーマに関する予備知識」について学識経験者による講義や会員各社の情報・事例発表、そして現場での実地検証に進みたいと考えています。

2.研究テーマの検討

アンケート結果を基に各項目での方針案について動画を交えながら示し、具体的なテーマの絞り込みに向けて討議しました。



# 日刊 岩手建設工業新聞

日本技術士会東北支部  
建設ICTシステム研究会

## 研究テーマの進め方検討 合理的な河川管理など提案



日本技術士会東北本15日、盛岡市内で開か  
部岩手県支部(小野寺 徳雄支部長)に設置さ  
れ建設生産システムに  
おけるICT(UAV)メン  
等)の計測・設計への  
適用検討を研究してい  
る建設ICT生産システ  
ム研究会(安野雅満 代  
表)の第2回会合が、

手法の検討・開発に向  
けた提案が示されたほ  
か、インフラメンテナ  
ンスに関しては今後、  
橋梁と道路に絞研究  
を進めていくことで一  
致した。同研究会では、  
河川管理について提言  
案をまとめ、20年度を  
めどに成果の普及活動  
の展開を目指す。  
同市津志田西の野田  
自治公民館での会合に  
は、安野代表や村上功  
副代表、小野寺支部長、  
メンバー22人が出席  
した。  
同日は、アンケート  
結果、研究テーマの河  
川管理やインフラメン  
テナンス、今後の進め  
方を議事として、メン  
バーらから意見が交わ  
らた。  
アンケート結果で  
は、河川管理の課題と  
して「土砂管理」「河  
川整備の考え方」「河  
川管理設計に要求され  
るデータ」などがキー  
ワードとして挙げられ  
た。インフラメンテナ  
ンスでは、対象として  
橋梁を中心に砂防、道  
路、港湾が候補として  
挙げられていた。  
続いて、安野代表や  
村上副代表が新テーマ  
についてそれぞれ説  
明。河川管理の研究テ  
ーマでは、合理的な低  
コスト河川管理手法の  
検討・開発に向け具体  
的な提案が行われた。  
第3回の会合は4月  
以降に開催を予定。I  
CT関連の技術や知識  
の共有化などを図る。  
同研究会は、14年8  
月に発足。災害時にお  
けるICTの活用を自  
的とした研究に取り組  
んできた。

盛岡市内で開かれた  
建設ICT生産システ  
ム研究会の第2回会合

より解析精度の  
検証▽3D現況地形モ  
デルの作成▽3D設計  
モデルの作成▽3D現  
況地形モデルと3Dモ  
デルの連携・統合の一  
成果を得た。研究成果  
をもとに県の各出先機  
関での技術研修・普及  
活動を展開してきた。  
災害時におけるICT  
活用に関する研究の  
成果が出たことから、  
今年8月に新たな研究  
テーマとして河川管理  
とインフラメンテナ  
ンスを設定し、新たなメ  
ンバーを募集。同支部  
会員ら22人がメンバ  
ーとなり、10月には第1  
回会合を開き、今後の  
進め方などについて検  
討。  
その後、新テーマに  
関しメンバーにアンケ  
ートを実施。河川管理

については、河川管理  
の課題や提供資機材  
など、インフラメンテ  
ナンスに関しては、対  
象や選定理由などを調  
査した。

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

事業名	岩手県沿岸広域振興局大船渡土木センター 昭和橋シンポジウムにおける講演
委員会・研究会名	県支部 村上 功
日時	平成 30 年 5 月 30 日（水）19：10～19：40
場所	住田町役場 町民ホール
参加人数等	約 40 人
活 動 内 容	
<p>近年、短時間豪雨や総雨量が数百ミリに達する大雨が各所で発生し、甚大な被害が多発している。今後も短時間豪雨の発生頻度や降水量の増大が予想されており、洪水被害のリスクが高まっている。</p> <p>このような状況を踏まえ、住民の皆様と行政が一体となって、水害リスクに関する知識と心構えを共有することが大切と考える。</p> <p>県は平成 26 年の津付ダムの事業中止決定を受けて、ダムに替わる新たな治水対策を進めてきた。住田町世田米に位置する、昭和橋は昭和 8 年に建設された老朽橋である。この橋は支間長が約 9 メートルとなっており、河川管理施設等構造令が規定する基準径間長を満たしていないなどの問題を抱えている。したがって、大雨などによって上流からの流木が橋に滞留し、河道を閉塞した場合、洪水被害拡大リスクが高くなる。</p> <p>こうした現状を踏まえて、県支部として平成 28 年 8 月の台風 10 号による岩泉町安家川の被災事例と復旧計画事例を紹介することによって、住民の治水対策に対する情報の共有と共通認識の醸成に寄与しようとするものである。</p> <p>シンポジウムは、以下の要領で開催された。</p> <p>第一部 基調講演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講師/公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部 村上 功 氏</li> <li>○ 講師/大日本コンサルタント株式会社 池田 大樹 氏 西山 穩 氏</li> </ul> <p>第二部 『昭和橋』アンケート報告及び意見交換</p> <p>この、シンポジウムでは、活発な意見交換がなされ、住民の方々の関心の高さをうかがい知ることができた。</p>	
	

## いわて技術フォーラム 活動報告

平成 30 年度 第 1 回 いわて技術士交流会 開催報告書	
日 時	平成 30 年 5 月 18 日 (金) 発表会 18:00~19:00、懇親会 19:00~20:30
場 所	エスポワールいわて 2F「いわての間」
参加者	浅利宗徳、糸井健、伊藤克紀、海野伸、桶屋眞士、小笠原智宏、小野寺徳雄、川野好宏、佐藤充弘、高橋潤吉、照井久、外館聖八朗、長沢和夫、野場稔、袴田豊、番澤悦昭、平井公康、松原和則、南正昭、村上功 計 20 名

業務・研究発表 1 : 「東日本大震災津波からの復興まちづくりについて」	
発表者	佐藤 充弘 氏 (岩手県県土整備部都市計画課)
概 要	<p>(1) 発表の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興に向けた 3 つの原則</li> <li>・復興まちづくりに用いた手法</li> <li>・復興の現状と課題</li> </ul> <p>(2) 復興まちづくりの事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興計画の 3 原則は、「安全」の確保、「なりわい」の再生、「暮らし」の再建</li> <li>・復興まちづくりの主な手法①土地区画整理事業、②津波復興拠点整備事業、③防災集団移転促進事業」の組み合わせにより市街地の復旧復興を推進</li> <li>・①土地区画整理事業→早期工事着手の工夫として起工承諾、仮の仮換地指定など</li> <li>・②津波復興拠点整備事業→津波被害から都市機能を維持するための拠点となる市街地を用地買収方式で緊急に整備するもの</li> <li>・③防災集団移転促進事業→被災地域において住居の集団的移転を行うもの 地方公共団体が移転先の住宅団地を整備し、被災者に譲渡又は賃貸するもの</li> </ul> <p>(3) 復興の現状と課題(H30年3月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり事業の進捗状況：区画整理 72.7%,津波拠点 40%,防災集団移転 96.8%</li> <li>・整備した土地の未利用地、被災地域の人口減など被災地再建に係る課題</li> </ul>
業務・研究発表 2 : 「補強土壁の基礎構造修正設計の概要」～(国)152号 小嵐バイパス～	
発表者	小笠原 智宏 氏 (新日本設計株式会社東北支社)
概 要	<p>(1) 発表の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜壁多数アンカー式補強土壁の基礎構造修正設計について</li> </ul> <p>(2) 修正設計の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道 152 号は長野県飯田市と静岡県浜松市を結ぶ重要路線(3 種 2 級,V=40km/h)</li> <li>・青崩峠道路のトンネルズリ V=63 万 m<sup>3</sup> を当該小嵐バイパスの盛土に利用する計画で国土交通省中部地方整備局飯田国道事務所が代行工事を行っている</li> <li>・中央構造線に平行した位置にあり、地形は急峻、地質は脆弱、一帯は崖錐堆積物</li> <li>・地盤改良上の課題：複雑な土質構成、改良深さの変更、狭小な施工スペース、地すべり地帯の掘削行為の制約条件、隣接の河川のモリアオガエルへの配慮</li> <li>・一次・二次検討の結果、幅広い土質に対応可能な「パワーブレンダー工法+ダブルパッカー工法(薬液注入)」を提案</li> </ul> <p>本工法は、表層・中層混合処理工法により原位置攪拌し、下部を薬液注入(New スリーブして地盤改良</p> <p>(3) 今後の課題等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独施工による非開削工法では無い事、今後、複合地盤の改良に適用可能な工法に注視する、地下水位上昇による地すべりブロックへの影響は後発業務で対応済</li> </ul>

《川野 記》

いわて技術フォーラム 活動報告

平成30年度 第2回 いわて技術士交流会 開催報告書	
日時	平成30年7月26日(木) 発表会 18:00~19:00、懇親会 19:00~20:30
場所	エスポワールいわて 3F 「いわての間」
参加者	浅利宗徳、糸井健、海野伸、小笠原智宏、桶屋眞士、小野寺徳雄、利部哲、川野好宏、佐藤悟、佐藤達也、島田智浩、高橋昌樹、照井久、長沢和夫、永田裕一、野場稔、平井公康、牧野仁、宮本直樹、村上功、安野雅満、渡辺平太郎 計22名

業務・研究発表1：「陸前高田市震災復興事業における弊社の取り組み(調査設計~CMR)」	
発表者	宮本 直樹 氏 島田 智浩 氏 (㈱リエンタルコンサルタンツ東北支店震災復興推進部)
概要	<p>(1) 発表の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被災市街地復興土地地区画整理事業(高田地区 186ha+今泉地区 112ha=298ha)</li> <li>震災復興事業に関わる工事施工等に関する一体的業務(CMR 方式マネジメント)</li> </ul> <p>(2) 被災市街地の復興まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>復興の基本理念: 3つの基本理念①世界に誇れる美しいまちの創造②活力あふれるまちの創造③ひとを育て命と絆を守るまちの創造</li> <li>6つのまちづくり目標: 災害に強い、快適魅力、安定した暮らし、活力のまち、優しい環境、協働のまち ➡ 『海と緑と太陽との共生・海浜都市の創造』</li> <li>高田地区、今泉地区で 300ha を整備(高台部と嵩上げ部)</li> <li>高台部は、希望者に換地、先行整備、早期住宅再建を目指す</li> <li>嵩上げ部は 8m~10m盛土実施、防災性の強化等安全なまちづくりを推進</li> <li>CMR 方式を導入し、調査・測量・設計・施工業務に関して一体的にマネジメント</li> </ul> <p>(3) 陸前高田市 CMR の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地権者の合意を得られず、事業が進まない。関連事業が多く、土砂置き場がない。許認可手続きに時間がかかる。計画変更がある。まちづくり(安全・暮らし・生業再生・観光交流人口・ノーマライゼーション・少子高齢化の自治体経営)等の課題有り。</li> <li>お知らせ: H30/9/30 に第7回ツールド三陸 in りくぜんたかた・おおふなとを開催</li> </ul>
業務・研究発表2：「プローブ調査分析(盛岡都市圏渋滞)」	
発表者	野場 稔 氏 (東北エンジニアリング㈱)
概要	<p>(1) 発表の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路整備並びに維持管理における基礎資料となる盛岡都市圏他路線の夏季・冬季の旅行速度調査(プローブ調査)実施、渋滞時間・速度低下箇所の抽出</li> </ul> <p>(2) 各路線のプローブ調査・解析及び渋滞状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プローブ調査 ➡ 旅行速度調査: GPS を搭載したプローブカーによる計測</li> <li>プロポ技術提案: ピーク時間の把握するため、10分@、速度グラフ間隔 100m@</li> <li>調査対象路線: 盛岡都市圏(R4,R46)、県南中部地区(R4)</li> <li>渋滞の定義: DID 地区別による渋滞長・通過時間、警視庁の走行速度 20km 未満</li> <li>盛岡都市圏の混雑傾向: 平日上り冬期の影響により渋滞数が増加、休日下り冬期は夏季より減少する</li> <li>県南中部地区 R4: 渋滞損失時間は、花巻東 BP 合流混雑影響(冬期)が顕著</li> <li>渋滞損失時間: R4(夏季平日朝 3 時間)の南大橋~茶畑 95,000 人時間/年・km が最大</li> </ul> <p>(3) プローブデータの現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ETC2.0 データを用いた道路交通の見える化(事例: 中央道上り線・小仏 TN 付近)</li> <li>他に、道路交通センサス、トラフィックカウンター、民間プローブなど。</li> </ul>

《川野 記》

いわて技術フォーラム 活動報告

平成30年度 第3回 いわて技術士交流会 開催報告書	
日時	平成30年9月28日(金) 発表会 18:00~19:00、懇親会 19:00~20:30
場所	エスポワールいわて 2F 「いわての間」
参加者	糸井健、海野伸、大宮幸司、小笠原智宏、桶屋眞士、利部哲、川野好宏、工藤清惣、黒墨秀行、佐藤俊孝、高橋敏晴、高橋昌樹、野場稔、番澤悦昭、村上功、森千夏、山田光雄 計17名

業務・研究発表1：「場所打杭施工時における地盤沈下対策について」	
発表者	番澤 悦昭 氏 ((株) 一測設計 盛岡支店)
概要	<p>(1) 発表の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沿岸広域振興局の漁港施設防潮堤の人口地盤対策工事</li> <li>・鋼管巻場所打杭の沈下対策における諸検討の紹介</li> </ul> <p>(2) 沈下の原因と対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間層で陥没、杭が傾いた。ケーシングが回転貫入不能。</li> <li>・原因の絞り込み：①中間層の礫層(AG3層) ②液状化層 ③被圧水 杭の中に土砂が入ること、ケーシングの回りに被圧水の影響で入り込むのでは原因の特定→被圧水であると断定</li> <li>・工法の選定：場所打杭(オールケーシング)と薬液注入による地盤改良工法に決定 →沈下対策として、孔壁を固結保全できるという原理を利用する</li> </ul> <p>(3) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原因の究明に時間を要したこと</li> <li>・工法の妥当性を判断することの難しさがあったこと</li> </ul>
業務・研究発表2：「災害公営住宅について」	
発表者	桶屋 眞士 氏 (岩手県県土整備部建築住宅課)
概要	<p>(1) 発表の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災の岩手県の災害公営住宅について(概要)</li> <li>・ 同上 の宮城県の災害公営住宅の取り組みの紹介(前年度まで自分が担当)</li> </ul> <p>(2) 災害公営住宅について</p> <p>①岩手県の災害公営住宅の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県市町村合計 5,865戸(県整備 2,846戸：完成 2,550戸、建設中 117戸) (市町村整備 3,019戸：完成 2,830戸、建設中 171戸)</li> </ul> <p>②宮城県の災害公営住宅の取り組み事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石巻市の大川小学校：児童が多数犠牲に。当時のハザードマップでは津波エリアの外</li> <li>・気仙沼市の県立向洋高校：避難した人は助かった⇒災害遺構で残す方針</li> <li>・応急仮設住宅：266万円/戸以下、29.7m<sup>2</sup>以下(国の基準)、民地や学校グラウンドを整備活用し建設、18畳の間取り</li> <li>・災害公営住宅：県タイプ 55m<sup>2</sup>、気仙沼市 戸建て 860戸(地元工務店が請負)、集会所</li> <li>・気仙沼市は、市街地整備はURに委託建設</li> </ul> <p>(3) 最後に(北海道視察：地震の報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の安平町：国道は通行可、古い建物は倒壊。厚真町：液状化が見られる、道路の破壊、地滑りが多数発生。</li> </ul>

《川野 記》

いわて技術フォーラム 活動報告

平成30年度 第4回 いわて技術士交流会 開催報告書	
日時	平成30年11月22日(木) 発表会 18:00~19:00、懇親会 19:00~20:30
場所	エスポワールいわて 2F「いわての間」
参加者	浅利宗徳、稲村真一、桶屋眞士、小野寺徳雄、小原正明、利部哲、川野好宏、高橋眞彦、出口清悦、出町圭介、外館聖八郎、番澤悦昭、日當正樹、平山健一、松原和則、村上功、森千夏、安野雅満 計18名

業務・研究発表1：「シカが法面緑化をダメにする！？～法面緑化におけるシカ被害の現状と課題」	
発表者	森 千夏 氏 (国土防災技術株式会社 盛岡支店)
概要	<p>(1) 発表の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法面緑化について</li> <li>・法面緑化のシカ被害の現状と対策について</li> </ul> <p>(2) 法面緑化とシカの被害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法面緑化とは、山の斜面を植生により表面侵食を防止すること</li> <li>・法面緑化の歴史は、禿山の修復であり、治山砂防における苗木植栽工に始まり、播種工による大規模緑化、外来草本種から郷土種による樹林化へ</li> <li>・法面緑化の被害は、暖かい地方に多いニホンシカによる：岩手の大船渡も多い</li> <li>・被害により、樹皮はぎ、裸地化、下層植生の消失、苗木への被害⇒法面機能が消失</li> <li>・外来草本種は飼料用の為、シカの餌場となっている：在来種は中国産が多い</li> </ul> <p>(3) 今後の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シカを法面に入れない⇒柵を立てる：食べさせない⇒金網を張る</li> <li>・シカが食べない植物⇒蕨で試験中⇒決定打はない？今後、モニタリングで検討</li> </ul>
業務・研究発表2：「東北地方一級河川の水質現況と北上川の水質」	
発表者	利部 哲 氏 (株式会社 パスク 水質分析センター)
概要	<p>(1) 発表の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北地方一級河川の水質について</li> <li>・北上川の水質について</li> </ul> <p>(2) 東北地方一級河川と北上川の水質</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北地方整備局では、1960年から東北地方の一級河川の水質調査を実施(12水系)</li> <li>・生活環境の保全に関する基準 BOD 満足度の推移：H6年濁水で66%、H10年以降東北管内151地点で90%以上⇒良好な河川(阿武隈川水系荒川、雄物川水系玉川)</li> <li>・H29年生活環境の環境基準の満足状況⇒水質調査結果 BOD・CODは12水系中8水系で100%の調査地点で満足(一般河川 BOD75%以上、ダム・湖75%以上)但し、高瀬川は小川原湖(汽水湖)の為、満足せず</li> <li>・人の健康に関する基準：評価法①BOD,COD②窒素、リン③珪素など</li> <li>・北上川の水質の特徴 <ul style="list-style-type: none"> <li>・勾配が緩く濁度が引けるのが遅い、下流に向けて BOD が上昇、SS は降雨時に高くなる、大腸菌群数は夏季に上昇、総窒素・リン一定の値で推移、PH は富士見橋で低い値(松尾鉦山の影響)、BOD は狐禅寺橋で C 類型</li> </ul> </li> </ul> <p>(3) 最後に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川水質は BOD で評価、水域類型で環境基準が設定、環境基準の達成率(東北)90%で推移</li> </ul>

《川野 記》

## 1. 岩手県支部長について

## 2. いわて技術フォーラム代表幹事について

以下の「いわて技術フォーラム代表幹事選挙告示 H31.4.10」に基づき代表幹事選挙を行う。

### いわて技術フォーラム代表幹事選挙告示

平成 31 年 4 月 10 日

選挙管理委員会 委員長 菊池 英雄

委員 多田 信之

委員 藤井 祐

いわて技術フォーラムの代表幹事選挙を下記により告示します。

#### 記

#### 1 選任する役員数

代表幹事 1 名

#### 2 立候補の届出

##### (1) 立候補者の資格

いわて技術フォーラム会員

##### (2) 届出の手続き

- ① 立候補する者または候補者を推薦する者は、「別紙－1」の立候補届（推薦届）を事務局に提出すること（郵送、メール添付可）
- ② 推薦の場合は本人の同意を得てから行うこと
- ③ 立候補届及び推薦届には、候補者の氏名、生年月日、略歴、入会年、所信などを記載すること

##### (3) 届出の期間

令和元年 5 月 7 日（火）から令和元年 5 月 23 日（木）まで（必着）

##### (4) 届出の宛先

〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ四丁目 4 番 20 号

土木技術会館内 いわて技術フォーラム事務局

Fax : 019-643-8892 e-mail : i.kikuchi@idcenter.jp

#### 4 立候補受付状況の公開

立候補届出者の氏名等は、会員に別途通知します。

#### 5 投票

##### (1) 投票期日

令和元年 6 月 22 日（土）に開催する年次大会において投票します。

##### (2) 投票方法

年次大会出席会員による無記名投票とし、投票用紙は大会の席上で配布します。

投票方法の詳細は総会の席上で説明します。

#### 6 開票

即時開票します。

いわて技術フォーラムの会長選挙について

令和元年 5 月 27 日  
選挙管理委員会 委員長 菊池 英雄  
委員 多田 信之  
委員 藤井 祐

いわて技術フォーラム規則に基づき実施する選挙の立候補者について、下記のとおりお知らせします。

記

1 立候補者  
佐藤 悟

2 当選者の確定  
立候補者が 1 名のため、規定に基づき上記の者を無投票当選とします。

以上

新・旧役員一覧表 上段:【県支部】 下段:【フォーラム】 ※太字:変更あり

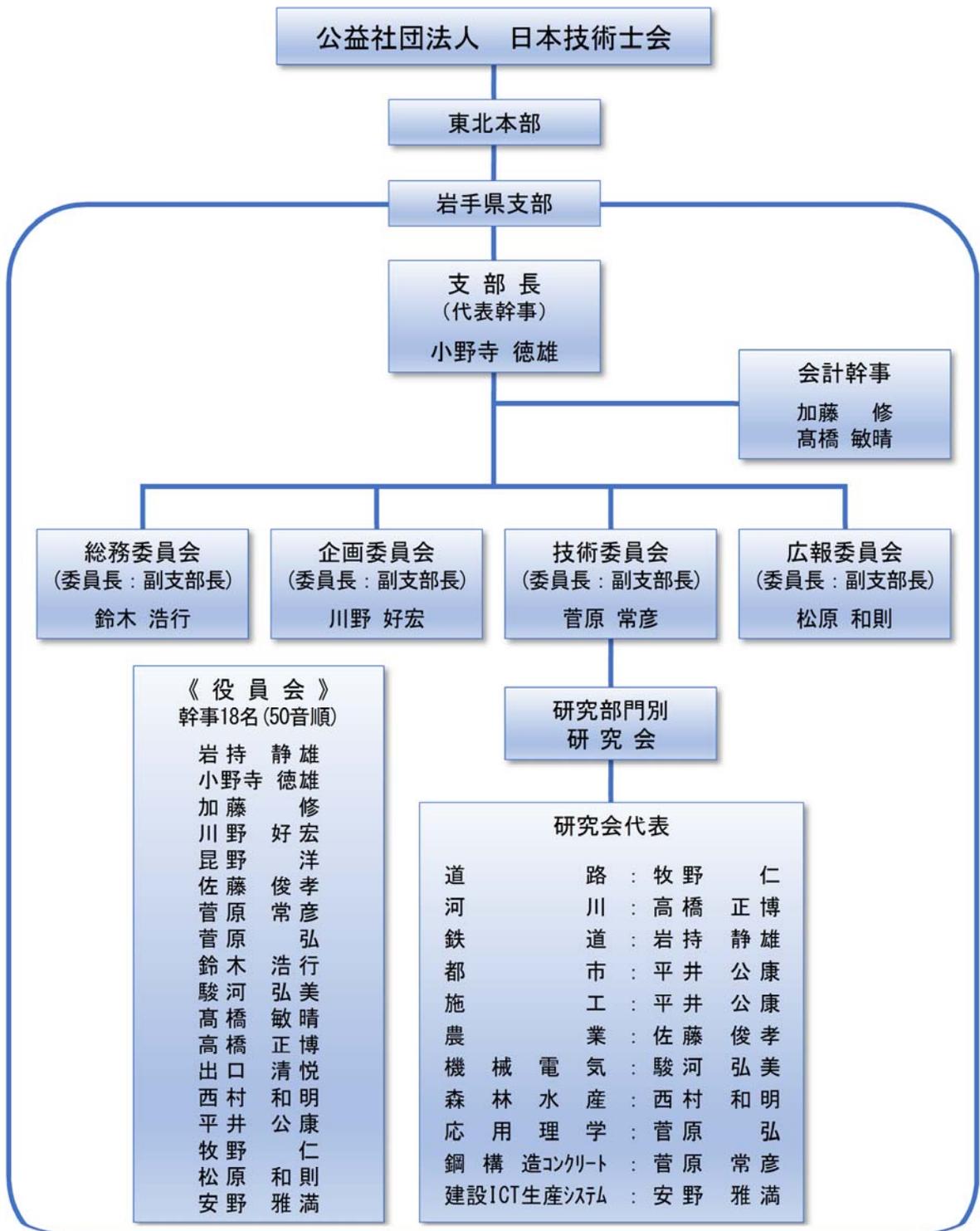
氏名の◎は本部会員、Fはフォーラム会員		旧(2017～18年度)	新(2019～20年度)	摘 要
支部長(代表幹事)		◎ 小野寺 徳雄	◎ 小野寺 徳雄	
会長		F 海野 伸	<b>F 佐藤 悟</b>	
副支部長 (副代表幹事)  (副会長)	総務委員長	◎ 駿河 弘美	◎ <b>鈴木 浩行</b>	
		◎ 川野 好宏	◎ 川野 好宏	
	企画委員長	◎ 出口 清悦	◎ <b>川野 好宏</b>	
		〃	〃	
	広報委員長	◎ 松原 和則	◎ 松原 和則	
		〃	〃	
	技術委員長	◎ 荘司 雄一	◎ <b>菅原 常彦</b>	
		〃	〃	
研究会代表	道路研究会	◎ 牧野 仁	◎ 牧野 仁	
		〃	〃	
	河川研究会	◎ 高橋 正博	◎ 高橋 正博	
		〃	〃	
	鉄道研究会	◎ 岩持 静雄	◎ 岩持 静雄	
		〃	〃	
	都市研究会	◎ 平井 公康	◎ 平井 公康	
		〃	〃	
	施工研究会	◎ 岩持 静雄	◎ <b>平井 公康</b>	
		〃	〃	
	農業研究会	◎ 浅利 宗徳	◎ <b>佐藤 俊孝</b>	
		〃	〃	
	機械電気研究会	◎ 駿河 弘美	◎ 駿河 弘美	
		〃	〃	
	森林水産研究会	◎ 西村 和明	◎ 西村 和明	
		◎ 小原 正明	◎ 小原 正明	
応用理学研究会	◎ 八重樫 栄	◎ <b>菅原 弘</b>		
	〃	〃		
	鋼構造ネット研究会	◎ 荘司 雄一	◎ <b>菅原 常彦</b>	
	〃	〃		
	建設ICT生産システム研究会	◎ 安野 雅満	◎ 安野 雅満	
	〃	〃		
副委員長	総務副委員長	◎ 鈴木 浩行	◎ <b>利部 哲</b>	
		〃	〃	
	企画副委員長	◎ 高橋 眞彦	◎ <b>番澤 悦昭</b>	
		〃	〃	
	広報副委員長	◎ 昆野 洋	◎ 昆野 洋	
		〃	〃	
	技術副委員長	◎ 平井 公康	◎ 平井 公康	
	〃	〃		
会 計 幹 事		◎ 黒墨 秀行	◎ <b>加藤 修</b>	
		〃	〃	
		◎ 高橋 敏晴	◎ 高橋 敏晴	
	〃	〃		

注) 県支部役員(幹事)は全員が役員選挙で信任されました。支部長の正式就任は7/4の東北本部役員会で承認後。

公益社団法人日本技術士会東北本部

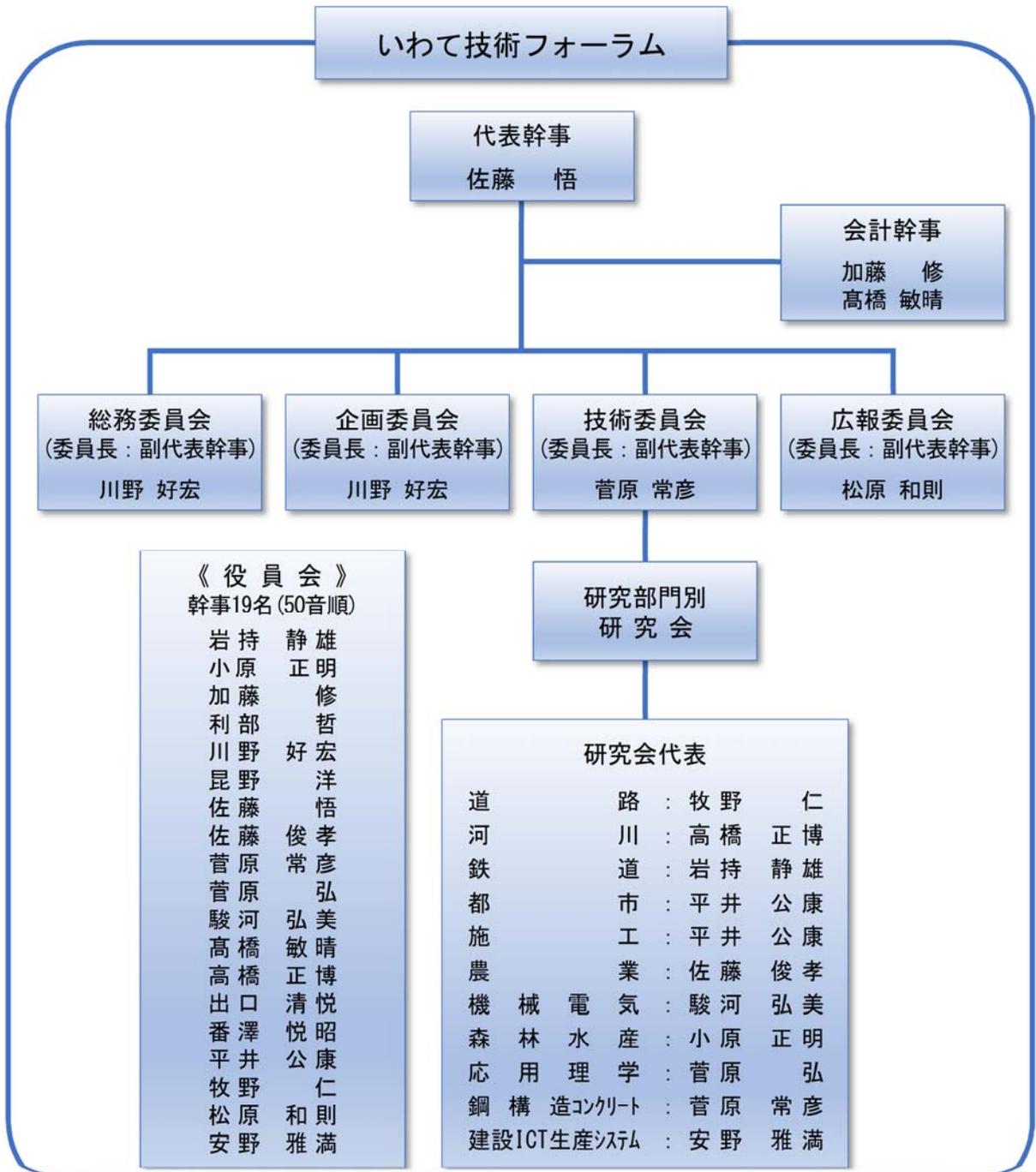
岩手県支部

組織図(2019年6月現在)



いわて技術フォーラム

組織図(2019年6月現在)



## 2019 年度岩手県支部事業計画書

[2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日]

### ■ 活動理念

- 自らの資質を向上させるよう、社会の変化に対応した技術の研鑽に継続して取り組む。
- 岩手県支部の総合力を向上させるよう、支部活動を通じて会員相互の連携を強化する。
- 社会・地域により一層の貢献ができるよう、公益的な活動や他機関との協働を進める。
- 技術士活動の継続的な発展が図れるよう、あらゆる場で若い技術者の育成を心がける。

### ■ 2019 年度の活動にあたって

東日本大震災からの復旧・復興、その途上での 2016 年の台風 10 号災害からの応急復旧、調査や復旧・復興計画の策定、日々の業務での専門技術を活かした社会貢献など、会員の皆様の献身的な活動に対しまして衷心より敬意を表します。

2019 年度の始まりにあたり、活動理念を具体化する形で本年度の活動にあたっての基本的な方針を以下に記します。

技術士の使命は公益の確保を第一義とし、その技術を社会全体の幸福のために活かすことですから、常に社会の変化や社会的な要請に対応した技術の継続的な研鑽に取り組み、資質の向上に努めなければなりません。県支部各研究会での研究・研修活動のほか、全ての県内技術士を対象とした業務・研究発表などの取組についても個々の資質向上とともに、県支部の総合力向上にもつながることから、今年度も継続して実施します。

2016 年から取り組んでいる岩手県主催の「いわてサイエンスシンポジウム 2019」への出展や建設 ICT 活用に関する取組などへも積極的に参画していきます。また、支部主催の講演会を継続実施するほか、公益的な活動や他機関との協働を進めることによって、技術士についての社会的な理解を広げ、深められるよう取り組んでいきます。

あらゆる組織においてその将来的な発展を担うのは次の世代となる若者です。技術士会活動のみならず、あらゆる場で若い技術者・技術士の育成を心がけましょう。

また、昨年度から実行委員会の構成部員として参画してきました（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」は、5 月に開催され大成功をおさめました。

これらの活動を通じて、より一層、社会・地域から頼りにされる技術士会岩手県支部を目指して参りたいと思いますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 2019 年度いわて技術フォーラム事業計画書

〔2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日〕

### ■ 2019 年度の活動にあたって

2019 年度は引き続き、技術士会岩手県支部との連携した取組を基本としつつ、県内技術士の一体となった活動の場として機能することを意識した活動を展開していきます。

具体的には、「いわて技術士交流会」を 4 回開催するほか、岩手県主催の「いわてサイエンスシンポジウム 2019」へ技術士会岩手県支部とともに参加することなどを予定しています。

これらの活動により、会員の技術力の向上と会員相互の理解・連携の強化を図り、あわせて、技術士活動についての普及啓発に努めてまいります。

会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## I. 一般事業

### 1. 委員会活動

主体	事業計画	概要	実施予定
役員会	役員会	岩手県支部の規則に則り年間6回を計画し、支部活動に関する協議を行なう	隔月
総務委員会	2019年度次大会	2018年度活動報告及び2019年度事業計画	2019.06.22
	技術士名簿作成	岩手県支部及びいわて技術フォーラム会員技術士の名簿作成	2019.10
企画委員会	いわてサイエンスシンポジウム	岩手県政策地域部の主催による、小中学生を対象とした、広く科学技術についての教育啓蒙活動への参加。当支部もその協賛支援団体で参画。	2019.08.10
	2019.秋季講演会	未定	2019.11.02
	2020.新春講演会	未定	2020.02.01
広報委員会	HP 運用	会員及び一般向けの情報掲載	随時
	ガイア寄稿	岩手県支部活動報告ほかの寄稿(2回/年程度)	東北本部依頼時
技術委員会		各研究会の活動計画は次頁参照	
いわて技術フォーラム	いわて技術士会交流会	業務・研究発表(2名) 第1回 業務・研究発表(2名) 第2回 業務・研究発表(2名) 第3回 業務・研究発表(2名) 第4回	2019.05 2019.07 2019.09 2019.11
	技術士名簿作成	岩手県支部及びいわて技術フォーラム会員技術士の名簿作成	2019.10

## 2. 研究会等活動

研究会名	事業計画	概要	実施予定
道 路	現場見学会	道路の施工現場見学	2019.09
河 川	現場研修会	大船渡市、陸前高田市 東日本大震災津波復旧・復興：砂浜再生、 海岸保全施設整備	2019.10
鉄 道		検討中	
都 市	研究会課題検討	会員による研究課題検討	6回 (2ヵ月に1回予定)
施 工	現場研修会	岩泉町 河川災害復旧（多自然型川づくり）	2019.09
農 業	研修会	ほ場整備の復興について	2019.11
機械電気		検討中	
森林・水産	現地見学会	現地見学会	2019.09
	技術士会主催行事への積極的参加	技術士と地域との関わりなど広いテーマで開催される	年数回
	いわて技術士交流会	技術士と地域との関わりなど広いテーマで開催される	年数回
	2019年度総会ならびに研修会	1. 総会（活動報告・会計報告） 2. 研修会	2020.03
応用理学	現地見学	応用理学に関連する見学会 (若手技術者・ベテラン技術者)	2019.10~11
鋼構造及び コンクリート		検討中	
建設 ICT 生産 システム	ICT 研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●これまでの研究会活動を踏まえた建設 ICT 普及活動の継続（県内の振興局等での技術講演会）。</li> <li>●新研究テーマによる研究（案） <ul style="list-style-type: none"> <li>・河口閉塞対策</li> <li>・河道の調査、計測</li> <li>・構造物の調査、計測</li> <li>・路面調査</li> </ul> </li> </ul> 以上についての実証と課題抽出を行う。	2019.07～

### 3. 社会貢献活動

#### (1) 講演会などの開催

講演会などの開催において、市民へ参加を呼びかけ岩手県の震災復興、地域の活性化に向けた取り組みについて情報発信を行う。

#### (2) いわてサイエンスシンポジウムへの参加

- ・ 主催：岩手県（いわてサイエンスシンポジウム 2019 実行委員会）
- ・ 開催目的：将来を担う子供たちに先端科学にふれる機会を提供する県民参加型科学技術の普及活動
- ・ 日時：2019年8月10日（土）
- ・ 場所：いわて県民情報交流センター/アイーナ
- ・ 当支部・フォーラムの参加：体験・展示コーナーへの出典

#### (3) 新聞連載企画「技術士の目」再開

日刊岩手建設工業新聞に8月から連載を再開する。防災や社会資本整備など社会経済が抱える問題について、会員がそれぞれ考えている意見を寄稿する。

### 4. その他

岩手県内在住の技術士が参加できる事業を展開し、併せて日本技術士会未加入の技術士に対する加入促進を図る。

東北本部 + 岩手県支部 一般会計収支予算書(案)

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	東北本部			岩手		
	(次年度)	(今年度)	(増減)	(次年度)	(今年度)	(増減)
I 事業活動収支の部						
1 事業活動収入						
(1) 入会金収入						
(2) 会費収入						
(3) 事業収入		6,200	▲ 6,200	130	50	80
① 広告料収入						
② 参加費収入		150	▲ 150	130	50	80
③ 各種資料等頒布収入		50	▲ 50			
④ 外部依頼管理収入						
(4) 雑収入		2,210	▲ 2,210			
(5) 地域組織活動費収入		7,640	▲ 7,640	330	330	
(6) 地域組織活動補助費収入		6,340	▲ 6,340	250	250	
① 講演会・見学会開催補助費収入		840	▲ 840	250	250	
事業活動収入計 (A)		22,390	▲ 22,390	710	630	80
2 事業活動支出						
(1) 事業費		22,589	▲ 22,589	710	1,365	▲ 655
① 事業促進費						
③ 事業広報費		1,390	▲ 1,390	210	210	
会誌印刷費		1,200	▲ 1,200	150	150	
会誌郵送費		50	▲ 50	20	20	
インターネット運用費		140	▲ 140	40	40	
その他の広報活動費						
④ 普及啓発費		9,900	▲ 9,900			
⑤ 相互交流費		300	▲ 300			
⑥ 研 鑽 費		840	▲ 840	250	800	▲ 550
講演会・見学会開催費		840	▲ 840	250	800	▲ 550
⑦ 業務推進費		10,109	▲ 10,109	250	355	▲ 105
法定福利費						
賃 金		2,850	▲ 2,850			
会 議 費		150	▲ 150	60	60	
旅費交通費		800	▲ 800	50	50	
通信運搬費		200	▲ 200			
消 耗 品 費		100	▲ 100			
印刷製本費		100	▲ 100			
各種会合費		200	▲ 200			
光熱水料費		180	▲ 180			
事務所賃借料		1,000	▲ 1,000	120	120	
賃 借 料		200	▲ 200			
地域組織活動費		2,579	▲ 2,579			
地域委員会活動費		1,400	▲ 1,400			
雑費その他		350	▲ 350	20	125	▲ 105
(2) 管理費						
事業活動支出計 (B)		22,589	▲ 22,589	710	1,365	▲ 655
事業活動収支差額 (A) - (B)		▲ 199	199		▲ 735	735
II 投資活動収支の部						
1 投資活動収入						
2 投資活動支出						
投資活動支出計 (D)						
投資活動収支差額 (C) - (D)						
III 予備費支出						
(1) 予備費支出 (E)						
当期収支差額 { (A)+(C) } - { (B)+(D)+(E) }		▲ 199	199		▲ 735	735
前期繰越収支差額	2,503	2,702	▲ 199		735	▲ 735
次期繰越収支差額	2,503	2,503				

## いわて技術フォーラム 2019年度収支予算書

(2019年 4月1日から2019年 3月31日まで)

### 【収入の部】

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会 費	456,000	498,000	△ 42,000	会員76名分
会 費 未 収 入 金	54,000	120,000	△ 66,000	H28 1名、H29 2名、H30 6名
総 会 参 加 費	70,000	70,000	0	
各 種 事 業 参 加 費	60,000	60,000	0	技術講演会・新年交歓会等
雑 収 入	585	1,704	△ 1,119	受取利息等
当 期 収 入 合 計	640,585	749,704		
前 期 繰 越 収 支 差 額	514,415	600,296	△ 85,881	
合 計	1,155,000	1,350,000	△ 195,000	

### 【支出の部】

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
総 会 費	200,000	200,000	0	会場費、資料コピー代他
役 員 会 費	60,000	50,000	10,000	会場費、資料コピー代他
委員会・研究会活動費	500,000	500,000	0	活動費、パソコン・プロジェクターリース代
広 報 ・ 渉 外 費	220,000	200,000	20,000	INS会費、会員名簿、広告費
事 務 費	150,000	200,000	△ 50,000	送料、送金手数料、事務手数料他
小 計	1,130,000	1,150,000	△ 20,000	
予 備 費	25,000	200,000	△ 175,000	
合 計	1,155,000	1,350,000	△ 195,000	

# 技術士倫理要綱

公益社団法人 日本技術士会  
昭和 36 年 3 月 14 日 制定  
平成 11 年 3 月 9 日 同改訂  
平成 23 年 3 月 17 日 同改定

技術士は、科学技術が社会や環境に重大な影響を与えることを十分に認識し、業務の履行を通して持続可能な社会の実現に貢献する。

技術士は、その使命を全うするために、技術士としての品位の向上に努め、技術の研鑽に励み、国際的な視野に立ってこの倫理綱領を遵守し、公正・誠実に行動する。

## （公衆の利益の優先）

1. 技術士は、公衆の安全、健康及び福利を最優先に考慮する。

## （持続可能性の確保）

2. 技術士は、地球環境の保全等、将来世代にわたる社会の持続可能性の確保に努める。

## （有能性の重視）

3. 技術士は、自分の力量が及ぶ範囲の業務を行い、確信のない業務には携わらない。

## （真実性の確保）

4. 技術士は、報告、説明又は発表を、客観的でかつ事実に基づいた情報を用いて行う。

## （公正かつ誠実な履行）

5. 技術士は、公正な分析と判断に基づき、託された業務を誠実に履行する。

## （秘密の保持）

6. 技術士は、業務上知り得た秘密を、正当な理由がなく他に漏らしたり、転用したりしない。

## （信用の保持）

7. 技術士は、品位を保持し、欺瞞的な行為、不当な報酬の授受等、信用を失うような行為をしない。

## （相互の協力）

8. 技術士は、相互に信頼し、相手の立場を尊重して協力するように努める。

## （法規の遵守等）

9. 技術士は、業務の対象となる地域の法規を遵守し、文化的価値を尊重する。

## （継続研鑽）

10. 技術士は、常に専門技術の力量並びに技術と社会が接する領域の知識を高めるとともに、人材育成に努める。